

第 6 学 年 国 語 科 学 習 指 導 案

日 時 平成 1 8 年 1 0 月 2 6 日 (木) 5 校 時
場 所 6 年 教 室
児 童 男 9 名 女 1 2 名 計 2 1 名
指 導 者 千 葉 知 行

- 1 . 単 元 名 聞 く 人 の 心 に 届 く よ う に 発 表 し よ う (光 村 図 書 「 6 年 下 」)
教 材 名 「 今 , わ た し は , ほ く は 」 (話 す ・ 聞 く)

2 . 単 元 に つ い て

(1) 教 材 に つ い て

学 習 指 導 要 領 第 5 ・ 6 年 の 「 話 す こ と ・ 聞 く こ と 」 の 目 標 は , 「 目 的 や 意 図 に 応 じ , 考 え た 事 や 伝 え たい 事 な ど を 的 確 に 話 す こ と や , 相 手 の 意 図 を つ か み な が ら 聞 く こ と が で き る よ う に す る と と も に , 計 画 的 に 話 し 合 お う と す る 態 度 を 育 て る 。 」 で あ る 。 こ れ を 受 け て 本 単 元 で は , 「 目 的 や 意 図 に 応 じ , 一 番 伝 え たい 事 が 効 果 的 に 聞 き 手 に 伝 わ る よ う に ス ピ ー チ を す る 力 」 を 育 て る こ と を ね ら い と し て 設 定 し た 。

本 教 材 は , 小 学 校 生 活 に お け る 話 す 活 動 の 最 終 段 階 の 教 材 で あ り , こ れ ま で 行 っ て き た 言 語 活 動 の 学 習 成 果 を ま と め 上 げ る も の で あ る 。 こ の 時 期 の 児 童 は , 今 ま で 過 ぎ て き た 小 学 校 生 活 に つ い て の 感 慨 や 未 来 へ の 期 待 な ど を 抱 い て い る と 思 わ れ る が , 6 年 間 の 自 分 を ふ り か え り , 自 分 の 思 い を 言 葉 に し て 伝 え 合 う こ と で , 互 い の 成 長 や 生 き 方 を 共 有 す る 機 会 と し たい 。 そ の た め に は , こ れ ま で 身 に 付 け て き た 分 か り や す く 適 切 に 話 す 力 を も と に し な が ら , さ ら に 聞 き 手 を よ り 意 識 し て 相 手 の 心 に 響 く よ う に 話 す こ と , ま た , そ の た め に は ど の よ う な こ と が 効 果 的 か 考 え な が ら 自 分 の 思 い を 伝 え て い かな け れ ば な ら ない と 考 え る 。

本 教 材 は , 第 一 次 「 ス ピ ー チ の 目 的 を つ か み , 教 材 文 か ら ス ピ ー チ を 考 え る 手 順 を 理 解 す る 。 」 , 第 二 次 「 効 果 的 に ス ピ ー チ を す る た め に , 話 題 と 構 成 を 考 え る 。 」 , 第 三 次 「 効 果 的 に 伝 え る こ と を 意 識 し て ス ピ ー チ を す る 。 」 と い う 3 つ の 学 習 活 動 か ら な る 。 第 一 次 で は , ス ピ ー チ の 目 的 意 識 , 相 手 意 識 を 持 た せ る こ と や ス ピ ー チ の 手 順 を 理 解 さ せ る こ と を ね ら っ て い る 。 第 二 次 で は , 自 分 の 思 い を 伝 え る た め の ス ピ ー チ メ モ を ど の よ う に 組 み 立 て る か を 考 え さ せ , 聞 き 手 を 意 識 し , 結 論 や 山 場 の 位 置 づ け , 事 実 と 感 想 ・ 意 見 の 組 み 立 て 方 な ど の 工 夫 を 取 り 入 れ る こ と や , 資 料 の 提 示 な ど 聞 き 手 に 印 象 づ け る た め の 効 果 的 な 話 し 方 を 工 夫 す る こ と を 学 習 す る 。 第 三 次 に お い て ス ピ ー チ 発 表 会 を 行 う 。 こ の よ う に , 相 手 の 心 に 響 く ス ピ ー チ を 行 う 本 教 材 は 単 元 の ね ら い を 達 成 す る の に 適 し た 教 材 で あ る と 考 え る 。

(2) 児 童 に つ い て

ス ピ ー チ に つ い て は , こ れ ま で に 3 年 生 「 み ん な 子 ど も だ っ た 」 , 4 年 生 「 十 歳 を 祝 お う 」 , 5 年 生 「 わ た し た ち の 学 校 生 活 」 , 『 子 ど も 環 境 会 議 』 を 聞 こ う と 段 階 を 踏 ん で 学 習 し て き て い る 。 6 年 生 に な っ て か ら も , 「 話 す ・ 聞 く 」 の 領 域 で 「 学 級 討 論 会 を し よ う 」 , 「 み ん な で 生 き る 町 」 を 学 習 し ,

みんなの前で自分の考えを発表したり，発表を聞いたりする経験をしてきている。このような学習体験から，できるだけ原稿を見ないでスピーチすることや声の大きさに気を配ってスピーチすることは徐々に身に付いてきているものの，事実や考えを簡単に発表するだけにとどまる児童も見られ，聞き手の心をつかむことを意識したスピーチをする力は十分に身に付いているとは言えない状況である。

(3) 指導にあたって

単元の指導について

本単元の指導にあたっては，導入段階において「聞く人の心に届く」とはどういうことか話し合うことで，自分の成長や6年間の学校生活に対する思いを確かめるというスピーチの目的意識，今まで一緒に生活してきた学級みんなへと言う相手意識を持たせたい。また，学校生活の中から題材をとり，効果的に伝わるような文の構成に着目させ，大きく3つのまとまりでスピーチメモを書かせる。そして，思い出の写真や心に残った一場面の絵などを見せながらスピーチしたり，声の調子や強弱をつけたりする工夫，さらに，話し始めの工夫などを考えさせることによって，聞き手に効果的に伝わることを意識したスピーチをさせたい。

研究主題に関わって

ア モデルの効果的な活用の工夫について

- ・スピーチメモを作る段階でどのような構成にすればより効果的に自分の思いが聞き手に伝わるかということを考えさせるため，「結論から話す」「山場から話す」「問いかけから話す」などのモデルを提示し，自分が聞き手の心にうったえかけるにはどれがよいか考えさせたい。
- ・第二次の第4時で効果的な構成についてもう一度考えさせ，自分の思いが相手に伝わるような組み立ての仕方をモデルにして示したり，資料の有効性に気付かせるために効果的な資料の活用の仕方も教師がモデルを示したりすることによって考えさせたい。
- ・発表練習の段階では，教科書のCDや教師の模範をモデルとして活用することで，効果的な話し方の方法について共通理解させたい。

イ 互いのよさを認め高め合う活動の工夫について

発表練習の場面では，児童一人一人が自分の発表を客観的にふりかえることができるよう，評価カードを活用したい。その際は，グループ内の数名が評価をし，互いにアドバイスし合う場を設け，第三次の発表に向けてお互いに高め合っていきたい。

4. 単元の目標

< 関心・意欲・態度 >

聞き手に印象づけるような工夫をしながら効果的にスピーチしようとする。

< 話すこと・聞くこと >

自分の伝えたいことが相手によく伝わるように，効果的な構成や話し方の工夫をしてスピーチをすることができる。 (話す・聞く ア)

友だちの話を聞き，話の中心を聞き取ることができる。 (話す・聞く イ)

< 言語 >

改まった場であることを意識し，適切な言葉遣いで話す。 (言語 カ(ア)(イ))

5. 指導計画 <全7時間>

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準	
第 一 次	1	スピーチの目的をつかみ、スピーチを考える手順を理解する。	関	目的をつかみ、自分の6年間をふりかえってスピーチをする活動に進んで取り組もうとしている。
			話	教材文を読みスピーチをするための手順を理解している。
第 二 次	2 3	発表の話題を考え、スピーチの内容について考える。	関	スピーチをするための話題と構成を進んで考えようとしている。
			話	スピーチをするための材料を集めスピーチの内容を考えている。
	4	教科書の発表例を参考にして、効果的な構成と話し方の工夫について考える。	関	効果的な構成と話し方の工夫について考えようとしている。
			話	効果的な構成と話し方の工夫を取り入れて話している。
	5	効果的な構成と話し方の工夫に注意して、発表練習をする。 【本 時】	関	効果的な構成と話し方の工夫を取り入れて、自分のスピーチをよりよいものにしようとしている。
話			効果的な構成と話し方の工夫を取り入れて、自分のスピーチを改善しながら話している。	
言			適切な言葉遣いで話している。	
第 三 次	6 7	スピーチ発表会を行う。	関	聞く人の心に届ける事を意識してスピーチをしようとしている。
			話	練習の成果を生かして発表している。 話し手の意図を聞き取っている。
			言	適切な言葉遣いで話している。

関 関心・意欲・態度 話 話すこと・聞くこと 言 言語事項

6. 本時の指導

(1) 具体目標

ア 目標とする児童の姿

聞き手の心に響くように、「効果的な構成と話し方の工夫」に着目して、スピーチをすることができる。(話し手)

イ 身に付けさせたい言語能力

効果的な構成と話し方の工夫をして、分かりやすく話す力。

(2) 展 開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入 (6分)	<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「効果的な構成と話し方の工夫」に気を付けて、自分のスピーチの練習をしよう。</p> </div> <p>2. 効果的な構成と話し方の工夫について確認する。</p>	<p>・前時までに話し合った「効果的な構成の工夫と話し方」を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><効果的な構成と話し方の工夫></p> <p>構成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出だしを印象深く話す。 ・話の中心をはっきりと話す。 ・体験を適切に入れて話す。 <p>話し方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の調子を変えて話す。 ・資料等を提示して話す。 ・よりよい言葉を選んで話す。 </div> <p>・本時は「聞く人の心に届く」スピーチをするために、「効果的な構成と話し方の工夫」に気を付けて練習することを確認する。</p>
展 開 (32分)	<p>3. 「効果的な構成の工夫と話し方」をもとに各自のめあてを決める。</p> <p>4. 発表練習をする。</p> <p>(1) 1人で発表練習をする。</p> <p>(2) 小グループで発表練習をする。</p> <p>(3) 友だちのアドバイスを取り入れて自分のスピーチを見直す。</p> <p>(4) アドバイスを活かして小グループで発表練習をする。</p>	<p>・それぞれ重点を置くポイントを確認し、各自のめあてを設定させる。</p> <p>・めあてを意識して発表練習をさせる。</p> <p>・場所を移動し、小グループ毎に発表練習をさせる。</p> <p>・発表後には効果的な構成と話し方の工夫について互いにアドバイスし合う。</p> <p style="text-align: right;">【手立て3】</p> <p>・アドバイスしてもらったことに気を付けて発表させる。</p>
終 末 (7分)	<p>5. 学習のまとめをする。</p> <p>今日の活動について自分や友達のがんばったところやよくなったところをふりかえる。</p> <p>6. 次時の学習内容の確認をする。</p>	<p>・自分や友だちのよくなった所を確認させ、成就感を持たせる。</p> <p>・次時は発表会本番であることを知らせる。</p>

(3) 具体の評価規準

A	聞き手の心に響くように、「効果的な構成と話し方の工夫」の観点を的確に取り入れてスピーチをしている。
B	聞き手の心に響くように、「効果的な構成と話し方の工夫」の観点到目して、スピーチをしている。
努力を要する子への支援	前時までの学習をふりかえって「効果的な話し方」の観点を確認させてからスピーチをさせる。